

若者も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める意見書(案)改

意見書賛成討論

山田美津代

マクロ経済スライドは 2004 年に導入され、国民年金と厚生年金とに均等に給付制限が適用されるよう設計されたのに、09 年の検証で様相が一変して基礎年金は 27%減、厚生年金は 9%減となりました。さらに 14 年には基礎年金 29%減厚生年金 6%減と格差が広がり 19 年の財政検証では基礎年金の削減が 47 年まで続き給付額は 28%も減少する試算結果が出ています。厚生年金は 25 年に削減が終わり 3%の減少にとどまるのにです。

自営業者や農民、非正規雇用者などが加入する国民年金は厚生年金と違い事業者負担がなく加入者の所得も低いため財政が苦しく規模も公的年金の 1 割程度にすぎません。今回の財政検証ではマクロによる給付抑制の大部分が基礎年金で実施されることになっています。全ての国民に健康で文化的な生活を保障するうえで基礎年金の底上げこそ求められているのにそれにこのマクロ制度は逆行するものです。27 日に行われた社会保障審議会年金部会では複数の委員から基礎年金部分の削減割合が大きいことが問題視されています。